

谷町ウォータージャンクション

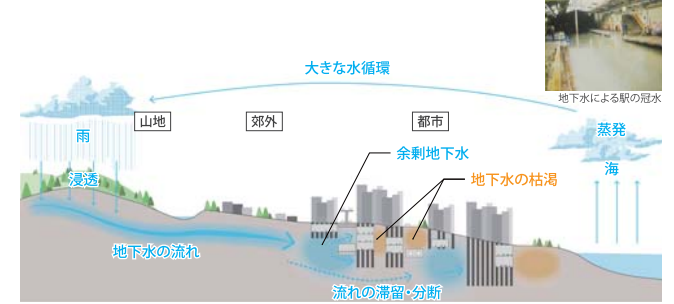
—水の溶けるまち—

我々は大きな水循環の中で暮らし、その恩恵の元に暮らしている。しかし、都市化の影響により地下水などの水循環に乱れが生じており、また地域レベルで様々な分断が生じている。そこで、現在余剰となっている地下水を地上部へ顕在化させ、都市インフラと周囲をつなぐ多様な「水面」を創出することで、地域の連続性を生み出し、様々な水と人との関わりあいをつくることで、かつての水循環の再生する「水の溶けるまち」を創出する。



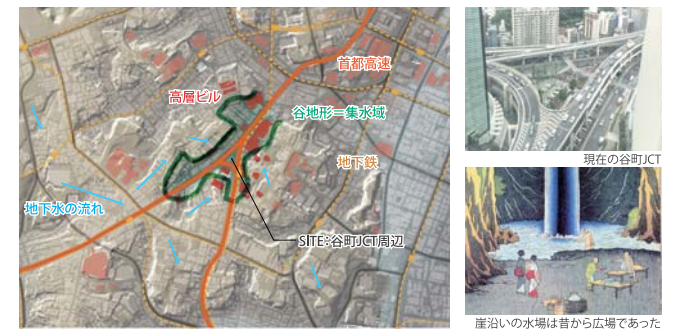
1.都市化による水循環の乱れ、余剰地下水

我々が普段使う水は大きな水循環の中で生み出されている。しかし、現在の都市化によって、雨水浸透が失われ、地下水の流れが乱れ、その影響で地下水が余剰になる場所、枯渇する場所が生み出されている。



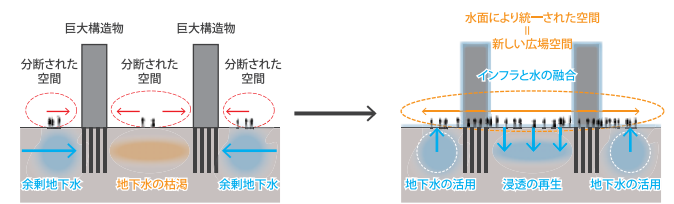
2.地形を無視した都市インフラ整備

かつて集水域として機能していた谷地は古来より地域に根づいた土地利用をなされ、生態学的な地域単位をなしている。しかし、現在高速道路、地下鉄、高層ビルによって分断され、そのつながりが希薄になっている。



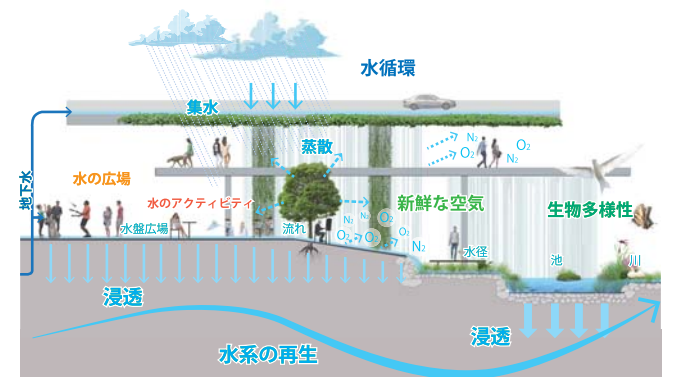
3.余剰地下水を顕在化、地域をつなぐ「水面」の創出

余剰地下水を地上部へ開放、既存インフラ・巨大構造物に這わすことで、「水面」で覆われた場をつくり、かつての集水域の景、浸透性を再生するとともに地域の連続性を生み出す。



4.地域の集水域の再生 —水の溶ける広場—

水循環を再生させるために、多様な水の流し方、浸透、貯留を広場に補充させ、ブルーインフラとして整備する。様々な水によるアクティビティを創出し、五感を通して水を体感できる空間となる。



5.水循環の再生

高速道路や鉄道などの都市インフラと谷地形との結節点を積極的に水の溶ける広場化することで、河川などと連動したリニアな水系を構築し、水循環の再生をはかり、東京を豊かで多様な水で溢れる「水都」に刷新する。

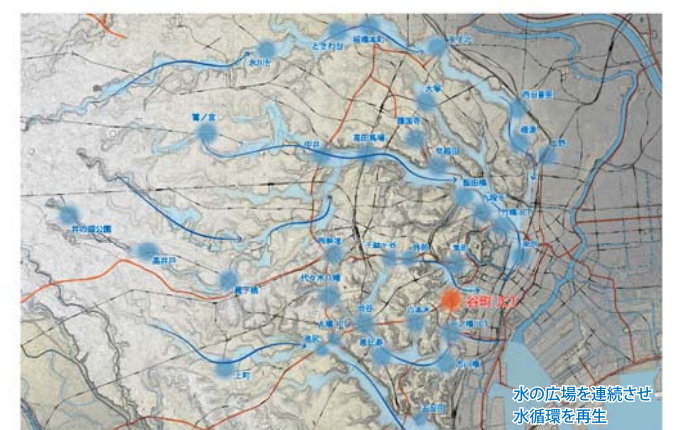


Image Section



PLAN S=1:2500